（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0174600205		
法人名	社会福祉法人　幕別真幸協会		
事業所名	グループホーム　くつろぎの家		
所在地	帯広市西1条南28丁目4番地1		
自己評価作成日	平成24年12月27日	評価結果市町村受理日	平成25年3月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「私たちは、一人ひとりに寄り添い、地域と共に安心して笑顔で暮らせる『家』に致します。」の理念のもと、入居者様の持つ個性・能力を活かす場を作れるよう支援しています。漬物作りや掃除等長い人生の中で培ってきた知恵を発揮して頂き、手慣れた作業を楽しみながら取り組める環境づくりにも配慮しています。
中々外出できない利用者様にも楽しんで頂けるよう『食』に力を入れており、季節ごとの食材を利用しつつ、自由献立や誕生会等の行事に合わせた献立となっております。また、ご本人の希望に沿った個別外出の実施、町内会行事参加や保育所訪問、母体施設の託児所の子供達とも触れ合う機会を作り、地域の方々との交流も深めています。管理者の向上意欲が旺盛で危機管理の初期対応とか終末期看取りに関する研修を積極的に行っている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9　ナルク江別内
訪問調査日	平成25年1月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

帯広市南東部の住宅街に位置し、付近には商業施設、公園があり自然環境・生活の利便性に恵まれている。母体法人は特別養護老人ホーム、デイサービスセンターなどを運営し、事業所間で人事交流をして蓄積されたノウハウを活かし、質の高いケアを行うと共に、毎月、全事業所職員による合同勉強会を実施し、サービスの質の向上に反映させるとともに、人材育成に力を注いでいる。短期間に複数の職員の異動があったが、職員全員が一丸となり急速に落ち着きと信頼関係を取り戻している。居間は明るくゆったりした家庭的雰囲気で、行事の写真、書などを飾り、観葉植物などが置かれ、職員は笑顔で利用者に優しく寄り添い、利用者はテレビを見たり、職員と一緒にカルタ、百人一首など思い思いのことをして過ごしている。毎月家族に、行事や外出先の写真と利用者の様子を詳しく書いた便りを送付し、また家族交流会を開いて悩みや意見を気軽に話せる場を作っている。職員は一人ひとりに寄り添い地域とともに安心して笑顔で暮らせるよう支援している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念は、職員と話し合いスタッフルームに掲示している。また、スタッフ会議に全員で唱和し、リネンの実践に取り組んでいる。	地域密着を基本にした独自の事業所理念を作成している。毎月のスタッフ会議で唱和をして職員は理解し共有できている。利用者を人生の大先輩として尊重し、職員自身が嫌な事は利用者にもしないという努力をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年も町内会に加入し、日帰り温泉旅行・焼肉親睦会・保育所の運動会等に積極的に取り組んでいる。	町内会に加入し、保育所運動会など町内会行事に積極的に参加している。事業所の「演芸の日」や食事会に地域住民が来訪するなど相互の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	訪問行事で沢山の方と交流を図ることができ、その中で認知症への理解を深めて頂けた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとの運営推進会議を実施している。利用者・ご家族・町内会長・地域包括支援センター・他グループホーム職員の方に参加して頂き、サービス向上に活かしている。	2ケ月毎に開催し、包括支援センター職員、町内会長、他グループホーム職員、利用者、家族が出席。事業報告のほか、外部評価報告・地域交流・感染予防を議題として議論をしている。委員も事業所のジンギスカンパーティに参加して、利用者と交流した。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、必要があれば連絡を取り合っている。電子メールも毎日チェックを入れ活用している。	ケア加算に関する不明な点を担当者に問い合わせるなど気軽に相談を持ちかけている。必要事項を定期的に報告し、情報を得るなど日頃から協力関係を深めていいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠をせず、玄関から外に出ても見守りを行い、目的地を探るよう心掛けている。ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑの職員も身体拘束の研修会に参加し、他のスタッフにも伝達している。	職員は身体拘束の弊害を十分理解し、母体法人の研修会に参加し、拘束に関する委員会からの最新情報や実践報告を使って会議を開き、拘束をしないケアの徹底に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	グループホームの職員が虐待の研修会に参加し、他スタッフに伝達・話し合いを行い、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人を立てている方はいないが、一人ひとりの個性を引き出し活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結には本体の職員も必ず同席し、しっかりと理解・納得頂けるよう十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先の見やすい所に苦情窓口の情報を掲示している。ご家族が面会に来られた際には、利用者の状況を報告している。	家族にアンケートを実施し意見、要望を聞くとともに、面会や家族会などで来訪したときに積極的に会話を交わして、話しやすい雰囲気を作ることを心がけ、意見や要望が出てくるように働きかけている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等で、職員の意見を聞いている。スタッフは担当を持ち、自分の意見が発言できるように促している。	毎月の会議や個人面接で気付きやアイデアを取り上げ、発言しやすい環境に努めている。日々の介護の現場で職員同士気づいた事があれば気軽に話せる雰囲気がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を導入し、本人の向上心・目標を持って働けるように心掛けている。また、ここに面接の機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修に積極的に参加してもらい、スタッフ会議の時に報告し活用している。母体で毎月社内研修をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ加入し、職員研修会・講演会にどんどん参加し、他のグループホームの方々との意見交流を図り、サービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、グループホーム内を見学して頂き、ご本人の状況又はご本人から十分お話を聞き、ニーズを把握し支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族面会時に、不安な事や要望等がないか職員から声を掛け、常に話しやすい雰囲気とご家族と信頼関係を深めていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の意向をお聞きし、他のｻｰﾋﾞｽ利用もご希望された場合には、各機関で連携をとりながら行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者の意見を尊重し、特技を生かしながら共に協力し合い、日常生活を送っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族交流会や利用者の誕生会等へご家族にも参加して頂き、絆を大切にしている。定期受診は、一緒に通院へ行くご家族もおり、変化等があれば必ず連絡をし連携を密にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が住んでいる自宅周辺を歩いてみたり、昔から馴染みのお店で買い物する機会を作っている。	自分の家が心配な利用者の自宅に職員が同行して安心させた。又、一時間かけて墓参りに同行して喜ばれた。馴染みの感覚が甦るように、昔の話を話すよう誘導し、聞くようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の気の合う方同士で、会話やテレビを見て過ごされたり、職員が間に入りカルタや百人一首等をし、利用者同士の関係が深まるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本体特養に入居になった利用者の居住環境を整えたり、グループホームでの生活を伝える等、必要に応じてご本人の支援を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族の好みや意向を尊重し、ケアプランに取り入れ、職員間で共通認識できるよう努めている。	日々の会話、表情、家族の情報から思いや意向の把握に努めている。利用者の誕生日には好物を用意する。家族にアンケートを実施して好みに関する情報を収集して、把握した内容を職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や環境を把握し、今までの生活に近い形を継続できるよう、ご本人や・ご家族の希望に沿うよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の記録を毎日細かく記入することで、細かい変化にも気づき、対応できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度、または必要に応じて1ヶ月に1度モニタリングを実施し評価している。ご本人・ご家族の意向を確認し、6ヶ月に1度ケアプランの見直しを行い同意を得ている。	利用者・家族の要望を基に、基本的にはケアマネージャーが作成して看護師、管理者、担当者、職員全体で集約したものを本部で決済する。全過程をチームで作り上げる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの入居者ごとに日常の生活の記録を行うことで、気づきや変化を確認し、職員間で情報を共有している。介護計画にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況や・希望に応じて、柔軟に支援できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や町内行事、市の生涯学習に参加して、本人の持っている能力を生かせる場を作り、支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が希望するかかりつけ医に受診している。受診時は必要に応じて日々の記録を持参、ご家族が受診される際は、日々の様子を口頭か書面にてお知らせしている。	全員が従来のかかり付け医を受診している。家族同行の場合は事業所での状況を書面などで伝えている。家族の要望で職員が同行する場合もある。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体法人の看護師に、週一回訪問時に毎日の心身の状況報告を行い、状態把握をしその都度相談・指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は入所中の状況を報告したり、入院中の情報を頂き、退院後のケアに繋げている。病院との連携はできている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者やご家族から重度化した場合の意向確認を行い、状況が変化する度にご家族と話し合いをしている。ホームでは、医療との協力体制を図り対応している。	契約時に重度化や看取りの方針を説明して同意を得ている。早い段階で家族と話し合いを重ねて、状況に応じて医療関係者と連携関係を密にして、情報や方針を共有できるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の緊急対応マニュアルを作成・訓練をし、対応できるようにしている。オンコール体制も整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間防災計画書に基づき毎月実施し、全職員が避難できるよう訓練を行っている。地域の住民の方にも訓練に参加して頂き、協力体制をとっている。	年間防災計画書を策定して毎月防災訓練を実施。消防署から夜間帯での優先事項の指導を受けて、夜間想定の訓練も行ない地域住民の参加もある。調理は電気で行っている。	特に夜間の火災や災害時に、少ない人手でどのように初期対応するのかを職員間で確認して、その後の援助体制を地域住民の力も借りて構築することを期待する。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いや言葉かけに配慮し対応している。	なれなれしい言葉遣い、荒い言葉をかけないように注意して、人格を尊重し、トイレ誘導では羞恥心やプライバシーに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の着替えを自ら着たい服を選んでもらう等、希望に沿うケアに努めている。自己決定の難しい方も本人の思いを汲み取ったケアを意識して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、その日の体調や希望に沿って支援している。入居者の習慣なども配慮してケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容での髪カット、希望に沿って髪染めを行っている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に楽しみが持てるよう、個々の嗜好に配慮しつつ季節感のある食材を使用している。また、食事の盛り付け・配膳等出来る事には無理なく取り組んで頂き、個々の力を発揮する機会を設けている。	能力に応じて盛り付けや片づけを行い、職員と一緒に季節の食材を遣った食事を楽しんでいる。職員が食事の評判や味付けを記録して、後の献立に活かしている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は小まめに記録し、1日を通して目標量を確保できるよう支援している。また、食事摂取量が少ない方には、高カロリーの補助食品等を提供し栄養状態の保持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け・介助を行っている。眠前は義歯を洗浄剤に浸けて、清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立に向けて、回数等個々のチェック表に記入を行い、排泄パターンを把握している。入居者の様子に応じて、トイレへの声掛け・誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握して適切な声掛け誘導をしている。排泄の自立のため、毎日30分の体操により筋力維持を図っている。排泄時に失敗しても責めずに、力づけて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を取り入れた食事の提供を行っている。体操や散歩を行い、自然排便に繋げられるよう心掛けている。また、個々に応じて処方されている下剤の調整も行い排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴されているが、希望に合わせ無理強いはせず時間・日にちをずらし対応している。お風呂好きな方もいらっしゃり、ゆっくりと湯船につかって頂きながら職員と会話する等、楽しみの時間になるよう配慮している。	週3回の入浴を基本としている。楽しい入浴となるように利用者の希望にできるだけ応じている。嫌がる場合は強制しないで、時間をずらしたり、声掛けする職員を変えたして工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は洗濯たたみ等の軽作業や日課の散歩、趣味活動への声掛けを行いながら活動的に過ごして頂く時間を設けている。また、体力を考慮しつつ昼寝の時間も調整し、夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を必ず服薬して頂くよう職員が管理している。また、職員は薬についての知識も深めており、症状の変化が見られた場合には、医師と相談し薬の量調整行い、薬に頼らないケアを心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に応じて役割を持って生活できるよう支援している。また、楽しみ・喜びのある生活が送れるよう個別外出や食事に力を入れ取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限りご本人の希望に沿えるよう、時にはご家族の方にも協力して頂きながら外出支援をしている。また、地域との交流も盛んに行っており、町内会行事への参加・保育所訪問もしている。他にも日常的に散歩に出掛けたり、季節ごとの祭にも足を運んでいる。	日常的に町内を散歩し、利用者の要望を聞いて動物園、日帰り温泉旅行などに出かけている。母体施設のバスで全員で季節の花見や紅葉見物に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は自ら金銭管理すること難しい方が多く、施設側で管理している。しかし、買い物等でご本人から希望がある場合、職員付き添いのもと、自ら支払して頂き、楽しみと意義・達成感を持てるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望された時には、ご家族と連携し、いつでも対応できるよう取り組んでいる。また、入居者の誕生会には、ご家族に自分の思いを手紙に書けるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上、不快な音や光を防ぐことが出来ない点もあるが、季節ごとの飾り付け、行事の写真・自ら描いた書道の作品等を貼り、懐かしさや楽しみを感じられる空間づくりを行っている。また、仲の良い入居者同士が集えるようソファーを設置したり、花や植物を置き、手入れする楽しみも持てるよう生活感あふれた環境になるよう取り組んでいる。	建物を改造した構造上、止むを得ない制約があるが、木の温もりある一般住宅の趣のある事業所である。居間は明るくゆったりした家庭的雰囲気で、観葉植物などが置かれ、壁には行事の写真や利用者の「書道の日」の作品が飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームはある程度の広さがあるので、一人になりたい方がいる場合には、皆さんと適度に距離を置くことも出来る。また、混乱がないようテーブル・ソファー共に座る席が決まっているが、入居者同士が集いやすいよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や馴染みの物を置いたり、ご本人の趣味に合わせ、ぬいぐるみや花等を飾るなど自分らしく安心して過ごせる環境づくりをしている。	居室には家族や利用者が馴染の身の回り品を持ち込み、居心地良く過ごせる空間を作っている。家族の写真やアルバムはいつでも見てもらえるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名前を貼り、迷わず居室へ戻れるよう配慮している。また、その方のできる事を理解したうえで行動を見守り、自立支援へと繋げている。		